

## ◎「第70回全国博物館大会」が高知市で開催される！

公益財団法人日本博物館協会が主催、こうちミュージアムネットワークが共催、文化庁・高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会が後援する「第70回全国博物館大会」が16～18日の日程で開催されました。主会場が「オーテピア4階ホール」「県民文化ホールグリーンホール」「人権啓発センター6階ホール」の3会場で開会式・基調講演・フォーラム・分科会(1～3)・シンポジウムが開かれた。

土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室は、分科会2「保存と活用・文化行政の課題克服と文化資源の活用」に招待され、市史編さん室・田村が4つの事例報告の1つを担い、「休校を利用した地域資料の保存と活用」とのテーマで事例報告を発表した。以下、その内容を抜粋して報告することにする。

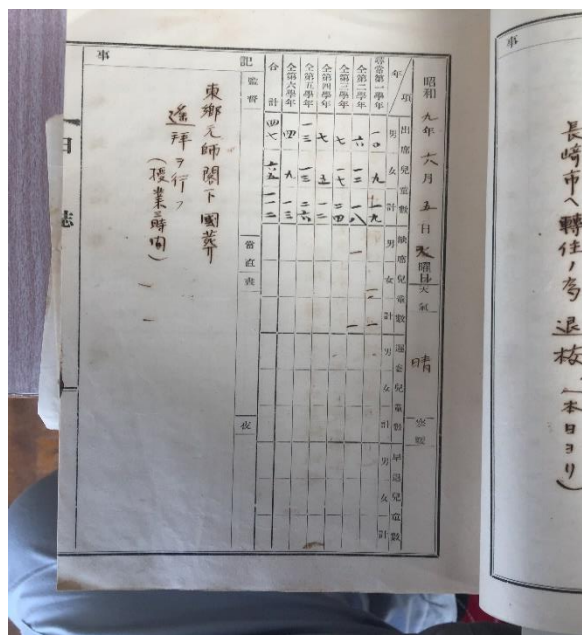


### (1) 休校・廃校の増加と残された『学校日誌』等の学校資料

当時の市人口 31,623 人(昭和 30 年国勢調査)。学校数も分校を含めればかなりの数になった。現在は高校 1 校、中学校 1 校、小学校 6 校、幼稚園・保育所 6 園という状況である。

休校・廃校になった『学校日誌』をはじめとする各種学校資料は、そのままの状態では老朽化した学校に保存されているのが実情。右の写真は、大津尋常小学校の『学校日誌』である。昭和 9 年 6 月 5 日の項では、東郷元帥の国葬のことが記述され、授業時間を割いて遥拝を行ったことが記されている。最近、国葬のことが何かと議論されており、興味深い記述である。

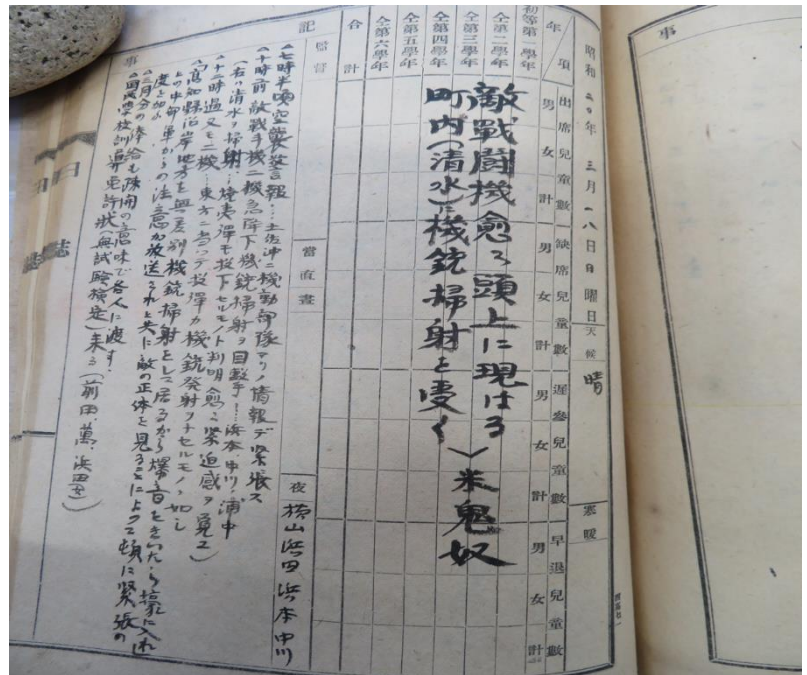
大津小学校は、平成 5 年に休校になり、その後廃校。以来、早 27 年が経過した。



次は、『昭和20年中浜国民学校日誌』である。昭和20年3月18日の項では、「敵戦闘機いよいよ頭上にあらわる。町内(清水)に機銃掃射受く。米鬼奴」と記されている。昭和20年3月18日、清水町、伊豆田村(後の下ノ加江町)空襲を受けたことが現『土佐清水市史』に記述されている。このとき時限爆弾が投下され、投下後1時間ほどして大爆発し、尊い人命が失われた。

このように残された『学校日誌』は、近代から現代にかけて戦争やこれを乗り越えてきた市民の歴史が刻まれた貴重な文化財と言える。

これらの資料が失われることは、貴重な地域史の一端が消失することにつながる。



↑昭和20年『中浜小学校学校日誌』3月18日の項

## (2)昭和31年(1956)からの土佐清水市内の児童数(実線)・生徒数(点線)の推移

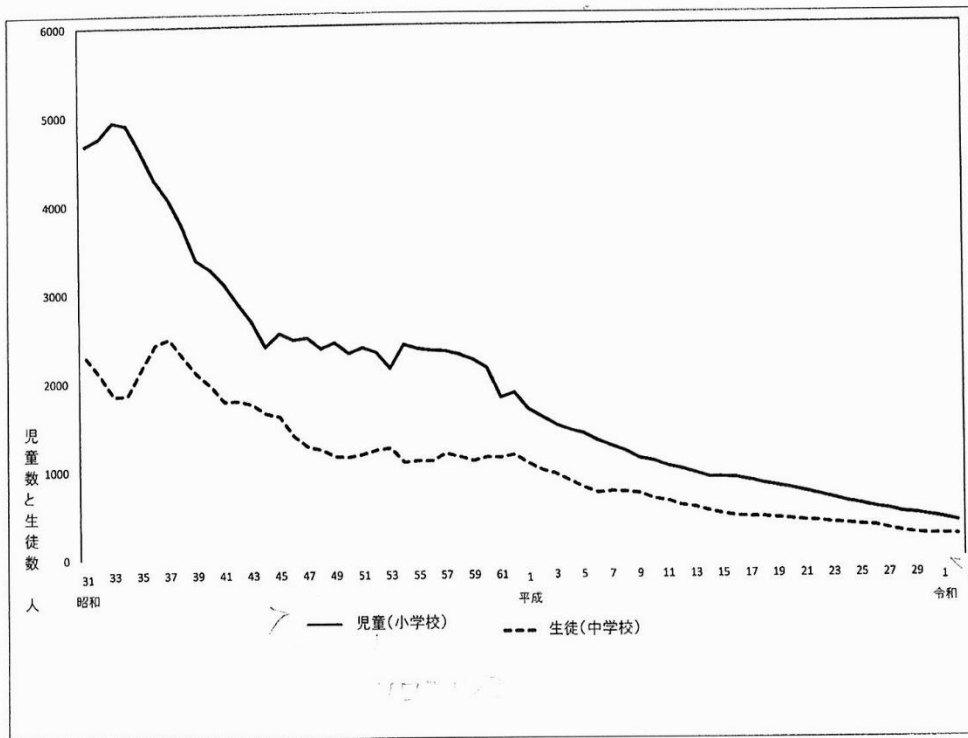


図1 昭和31年から令和元年までの児童数と生徒数の変遷

2,000人台で推移している。

昭和61年以降、徐々に減少となり、令和2年には、368人にまで減少した。ピークが5,000人、現在400人を切る現状である。

中学校でも、昭和37年の2,492人をピークに現在、235人となり、ピーク時の10分の1となった。





昭和29年(市制施行)以降 学校・保育園分布図



令和元年頃の学校・保育園の分布図

左図は「市制施行後の学校・保育園の分布図」である。市制発足後の学校・保育園がいかに多かったかが分かる。右図は「令和元年現在の学校・保育園の分布図」である。左右を比較すると、学校や保育園の数が大幅に減少したことが一目瞭然で分かる。

以上のように、急速な過疎化・少子高齢化の大波が土佐清水市に限らず、全国の農村・漁村・山村・地方都市を直撃している。この大波は、生活・交通・医療などの生活基盤の維持困難や、産業などの後継者不足・衰退、地域の祭りや伝承。これらの断絶につながっている。

### (3)土佐清水市教育委員会の実施した学校資料レスキュー

#### —『大津小学校日誌』での取り組み—

土佐清水市教育委員会では、「高知県学校資料を考える会」「こうちミュージアムネットワーク」「高知城歴史博物館」、地元の「土佐清水市郷土史同好会」などの支援を受け、令和2年度からこのレスキュー活動を実施している。これらのレスキューした学校資料を休校中の中浜小学校の2階へ移設し、保存していくことになった。

現在、多くの方々のご協力を得て、資料は保存用の中性紙箱に整理され、所蔵リストも作成され、重要資料は写真撮影もしていただきました。この3年間の取り組みで延べ60名の方々にお世話になりました。

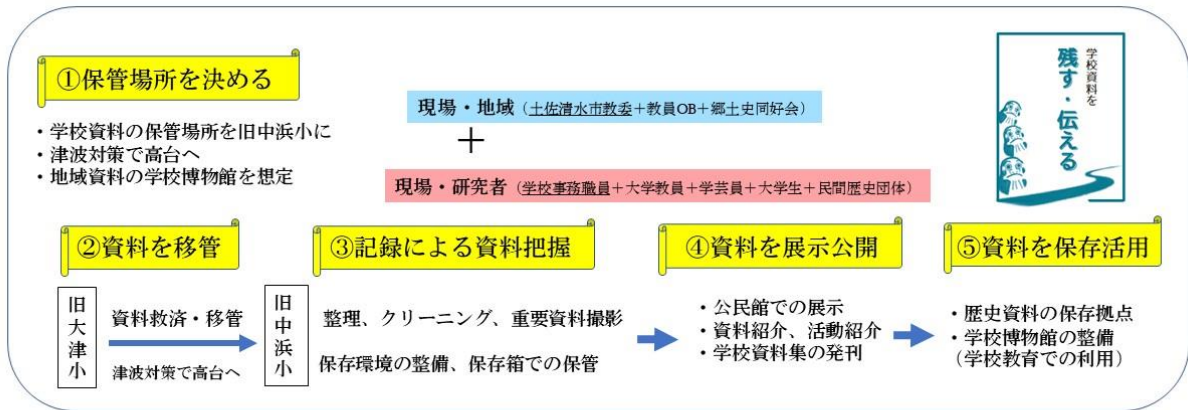


↑中浜小で整理する前の大津小「学校資料」



↑整理後の大津小「学校資料」

**(4)このレスキューを「土佐清水モデル」として県内に周知して取り組みを広げる！**



(土佐清水モデル) → 学校・教委が主体になり、専門知識を持つ研究者らが支援



上図(作成者・楠瀬慶太氏)は、これらのレスキュー活動を「土佐清水モデル」としてまとめたものである。この「土佐清水モデル」を高知県内の各市町村で展開していくことが重要である。このままでいくと、近代以降の学校教育史を根幹とする地域史に大きな空白が生まれかねない。この「土佐清水モデル」の実施は、近現代史の空白を埋め、新たな歴史の発見も期待できる取り組みとなるだろう。

**(5)今後の「中浜小学校2階歴史所蔵スペース」の運営と方向性**

様々な方々にご支援いただいた資料は、中浜小学校へ大切に保存している。今後、民間等の貴重な資料等も併せて保管していきたい。

今年度の補正予算の議会承認を経て、書架・遮光カーテン・中性紙箱を揃え、「中浜小2階歴史所蔵スペース」の整備を年内に進めていく計画である。

